

[CASE 03]

やまぐち ようすけ
山口 洋介さん
南陽市消防団 第6分団副分団長

いざという時のための 安心を担う責任感



およそ20年にわたって消防団活動を続けてきた山口さんは、2023年の春に長年の貢献が評価され第6分団副分団長を拝命しました。

「入団してすぐの頃にもさまざまな行事がありましたが、当時は自分が何をすれば良いのかも分からないような状態でした。しかし団活動を続けていくうち自然に、地域の安全に貢献しているという意識に変わっていきました」

山口さんは酪農業に従事しており、「必要な機具が必要な時に使えないこと」のリスクを熟知。その経験は団活動にも生かされ、団幹部警防担当としてポンプ性能検査やポンプ庫備品調査に取り組んでいます。

「ある時の点検で、ポンプのエンジンから煙が出たことがありました。これがもし実際の火事で出動したときだったら大変なことになっていたと思います。機器の故障は見た目では分からないことも多いので、点検の大切さを実感した経験です」

活動を重ねるうちに育まれていった、地域の安全に対する責任感。山口さんは消防団活動に、たしかなやりがいを感じています。

Q1 入団して良かったと思うのはどんな時ですか？

練習の成果が実を結び県で2位になることができた操法大会も、出初式ではおしご乗りではしごを支えたことも、活動の全てが消防団に入団しなければ経験できないことでした。活動を重ねていくことで団員同士の絆も実感できますし、私は入団して本当に良かったと思っています。



Q2 仕事・家庭との両立は大変ですか？

酪農に従事する私にとっては、仕事も家庭も消防団活動も、全てが地続きにあります。また、日によって活動に参加できない場合が誰にでもあることは、団員全員が承知しています。消防団活動は本人の意思に基づくものです。まずはできる範囲で参加することが大切だと思います。



消防団活動は、決して楽ではありません。ですが、そこから得られるものも大きいはずですよ。

1

2

3

4

1.山口さんが「何よりも大切」と言うこともたち

2.令和5年の春季演習での一コマ

3.4.南陽市消防団の任免式は「世界最大の木造コンサートホール」としてギネス世界記録に認定された「シェルターなんようホール」で行われます